

ささやく声に耳を澄ませて

谷口 ^{まさし} 尚志 (福岡司教区司祭)

229 共に回る歯車として

●マタイ28・16-20

最近、なにげなく見始めたところ、やめられなくなったアニメがあります。大ざっぱに紹介すると、石になった人類の一人が、何千年かたって元に戻り、石になっている他の人類を、科学の知識と技術を駆使して元に戻しつつ、朽ち果ててしまった文明を一から築き上げていくという話です。その中で「歯車」を発明するシーンがあるのですが、その「歯車」によって、それまで人力で生み出していたエネルギーを、より効率的に得られるようになり、蒸気機関を用いた自動車の開発につながります。逆戻りした石器時代で、いわば産業革命を起こすわけです。

きょう、私たちは三位一体の神秘をお祝いします。神が三位一体であることは、主イエスがマタイ28章19節で「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、……」と命令していることから明らかです。初代教会の時代から、父である神とひとり子であるキリスト、そして聖霊とはひとつであると洗礼式において宣言されてきたと考えられており、それは、西暦381年に開かれた第1回コンスタンチノーブル公会議においてまとめられたニケーア・コンスタンチノーブル信条として現在も信仰宣言文として用いられています。アレクサンドリア司教であった聖アタナシオも自身の手紙の中でエフェソ4章6節にある表現を借りて「唯一の神は父として、源として、泉として『すべてのものの上にあり』、みことばを通じて『すべてのものを通して働き』、聖霊において『すべてのものの内に』おられます」と語っています。

私たちは三位一体の神秘を通して、主イエスの受難、死と復活、昇天、聖霊降臨の出来事によって派遣されている教会の使命にあらためて気づき、世の終わりまで共におられる神の姿を自覚するように促されています。主イエスは「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と言われているのです(20節)。

三位一体の神秘を信じるということは、私たちが父である神、ひとり子であるキリスト、聖霊という歯車にかみ合わせられるということです。常に回転して大きなエネルギーを生み出す核となる存在、それが神という歯車です。神の似姿として創られた人類は、歯車と共に回りながら、生み出されたエネルギーを用いて世の中を動かしていきますが、それは福音宣教にも当てはまるのです(よって歯車なしに福音宣教はできません)。三位一体の神秘にあずかる教会が、この福音宣教の使命と向き合いながら日々を送ることができますように。

「かくいんひるば」指導のヒント●イエスさまを信じるわたしたちが、ひとつに集まるとき、いつも聖霊が力をくださいます。復活されたイエスさまは、昇天によって私たちが遠ざかったのではありません。今も私たちに助けてくださっています。イエスさまは、御父の愛ですべてをひとつに近づけてくださいます。